

# いざなぎ学園だより

## 第29回講座 令和7年2月19日（水）



令和7年2月19日(水)午前10:00から淡路文化会館講堂にて、淡路地方史研究会会長の海部伸雄氏をお招きし、第29回講座「江戸時代・淡路島庶民の旅と信仰」を開催しました。学園生73名、単発受講生1名が受講しました。講座では、江戸時代に淡路島の民衆にも愛されていた住吉大社参りや四国遍路、伊勢参りなど信仰の旅についてわかりやすくお話いただきました。今では島民でも知る人が少なくなった淡路巡礼とお接待の風習についても詳しく解説していただき、当時の旅人たちに思いを馳せながら学ぶことができました。

### ◎学園生のみなさんの感想 振り返りシートから（抜粋）

- 幼い頃おぼろげに覚えている“巡礼さん”についてよくわかりました。
- 江戸時代に淡路島の人たちが船で信仰の旅に出ていたようですが、資料とともに紹介されて興味深かったです。信仰の旅をすることで、他の地域との交流や修行の意味もあったと知ることができて面白かったです。
- 巡礼のお接待をしていましたが、どういう意味があったのかよくわかりました。楽しい内容でした。
- 淡路島庶民が船で旅行するのは大変なことだったと思います。
- 講師の説明はわかりやすく上手。声もよく通って、おもしろかったです。
- 淡路島庶民の旅先別人数が記録されていて、その資料データとなる往来手形が保存され読み解かれていることに感動しました。
- 淡路巡礼が行われていたことを初めて知りました。信仰をしながらいろいろと巡り、楽しみでもあったのだなと思います。
- 淡路島庶民の旅の様子がよくわかる講義でした。往来手形や渡海切手は初めて聞く言葉でした。家を離れる時に庄屋の許可が必要だったことは少し不自由さを感じました。
- 巡礼の旅は地域の人々に守られ、支えられて達成できていたのだと思いました。
- 巡礼と聞くと四国だと思っていましたが、淡路巡礼も古くからあるのだと思いました。
- 江戸時代に淡路巡礼という旅で功德を積み、接待で功德の施しを受けるという循環の仕組みがよくわかり、興味深く聴かせていただきました。

兵庫県立淡路文化会館

〒656-1521 兵庫県淡路市多賀600

TEL 0799-85-1391 FAX 0799-85-0400

<https://www.awaji-bunkakaikan.jp/>



AWAJI CULTURAL HALL